

子ども食堂応援事業

相互扶助の精神に基づき社会貢献の一環として



十勝信用組合

<https://www.tokachishinkumi.com>

ちかくにいるから、
チカラになれる。



十勝信用組合「子ども食堂応援事業」への取組

子ども食堂とは

地域の住民たちや自治体を中心となり、低料金または無料で子どもたちにご飯を提供するサービスのことです。

十勝管内の取組

十勝振興局が窓口となり、帯広市、音更町、新得町、清水町、士幌町、芽室町、大樹町、幕別町、池田町、足寄町の11市町村で計18箇所の子どもの食堂が運営されています。(令和3年6月現在)

「子ども食堂応援事業」の目的

当組合は、十勝振興局からの情報提供より、子どもの食堂の活動内容に共鳴し、社会貢献の一環として、将来地元で活躍する子どもたちの支援に繋がればとの思いから「子ども食堂応援事業」を取組ます。

十勝信組実施

- ・十勝振興局との協議の結果、「お米券」を贈呈することとしました。
- ・令和3年12月22日、高橋理事長より水戸部振興局長へ「お米券」20万円分を寄贈

子ども食堂へ寄付増加

本年度 振興局13件受け付け

十勝総合振興局が行っている子ども食堂応援事業への寄付が増えている。昨年度の2件に対し、本年度は22日時点ですでに13件。企業や団体による寄付が中心で、同振興局は「コロナ禍で困窮家庭への関心が高まり、社会貢献の一つとして子ども食堂への支援が広がっているのでは」とみている。

「子ども食堂」への寄付受け付け事業を始めた。本年度はこれまでに、管内の企業や団体から10件、個人から3件の寄付があり、米やカップラーメン、乾パンなどの日持ちする食材のほか、消毒液や生理用品といった衛生用品が集まった。個人の農家がジャガイモ160kgを寄付したケースもあった。

22日には十勝信用組合の高橋克弘理事長が振興局を訪ね、水戸部裕局長にお米券20万円分を手渡した。子ども食堂への寄付は初めてといい、高橋理事長は「将来地元で活躍する子どもたちの支援につながれば」と話した。

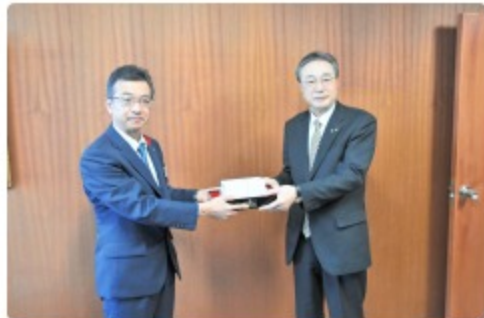
同振興局によると管内の子ども食堂は19年度は5カ所だったが、現在は18カ所に増えている。継続的な寄付が求められる一方、保存のきかない食材や保管場所の確保に困ることもあり、担当者は「寄付をする場合はぜひ一度相談してほしい」と話す。問い合わせは同振興局

十勝総合振興局の水戸部裕局長（左）にお米券20万円分を手渡す十勝信用組合の高橋克弘理事長

社会福祉課 ☎0155・27・8704へ。(田口友博)

北海道新聞掲載記事

十勝信用組合が「子ども食堂応援事業」にお米券20万円寄付



水戸部局長（左）に「お米券」を手渡す高橋理事長

十勝信用組合（高橋克弘理事長）は、十勝総合振興局が進める「子ども食堂応援事業」に、お米券20万円分を寄付した。社会貢献活動の一環で、高橋理事長は、「何かお役に立つことができればと思っていた。継続的に行っていききたい」と話している。

同組合では、母子家庭・父子家庭の高校生を対象にした返還不要の給付型奨学金「はばたき奨学金」事業などを展開。次代を担う子どもたちを支援する事業を進める中で、「子ども食堂応援事業」の取り組みに賛同。「期限を気にせずに、使っていただけるもの」（高橋理事長）として、お米券を贈った。

高橋理事長、大場孝志専務理事、大戸克哉営業推進部部長が12月22日、同局を訪れ、水戸部裕局長にお米券を手渡した。水戸部局長は「子ども食堂は地域のコミュニティーにもなっている。ご厚意に感謝したい」などと話した。

同局によると、本年度は企業や団体など計13件から食材や衛生用品などが寄付され、管内で運営される計18カ所の子ども食堂で利用されている。寄付などの問い合わせは、十勝総合振興局社会福祉課（0155・27・8515）へ。

（松岡秀宜）